



自ら掴む経営エッセンス!

(記事: 渡部成夫 過去記事も読めます⇒<http://idoina.com>)

6/3(火)

テーマ: 『悔しさをバネに、そして感謝』

出席24社24名

(美浜18、他会6、非会員0)

講師: 松戸中央倫理法人会 安藤俊雄 相談役



Toshio Anbiru

周りの人が安心するような、優しい強さを持つ安藤先生。

経営者の心の持ち方と良い社風作り

安藤氏は、公認会計士・税理士歴33年。企業のブレーンの一員として働く立場上、様々な社長さん達の苦難談・成功談を聞く機会も多い。「何倍もの人生を疑似体験できる、本当にありがたい仕事に就けていて、感謝している」という。

失敗談を突き詰めてみると、失敗は大抵、少しの成功体験で奢り高ぶり、周りのご支援を忘れてしまうから起こることがわかった。人間、心の浮き沈みはあるもの。だから安藤氏は、「毎週MSで、前向きで公明正大な自分を維持している」。

経営は、経営者の心の持ち方がまず大切だ。その上で、特に中小企業に必要な要素を挙げる。

まず、①お客様に喜ばれること。売上は、これに連動する。「業績を上げたければ、人の心を追え」、お客様や社員の心はもちろん、倫理を勉強する我々は物の心までも、追いたい。心のように目に見えない力が、経営にはとても大切だ。

<経営のイメージ>

- ①お客様に喜ばれ
- ②社員が生き生きと働き
- ③利益を出して
- ④社会貢献する

次は、②社員が生き生きと働ける、良い社風作りだ。単独では優秀な人材も、良い社風があって初めて、相乗効果を生み出し、更なる力を発揮できる。また、人材の定着にもつながる。『職場の教養』を使った朝礼や清掃もいい。経営者自ら気持ち良くやっていたら、自然と従業員も一緒にやってくれる。そして、④社会貢献こそ、企業存在の意義となる。

悔しさをバネに、自分の使命を持ち続け、感謝する

安藤氏も、会計士になる前は、自分探しの時期があった。アメリカにも行った。安藤氏は、「すべてが使命のための経験。人生ムダがない。ムダな経験があるとすれば、それは自分が生かさなかつただけ。人には使命がある」という。

そうした経験があって今があり、公認会計士・税理士の仕事を天職だと思い、仕事を通じて自分の使命を感じる中で、感謝の気持ちが大きくなる。とは言っても、使命を持ち続けることは難しい。そこで、「悔しい体験」がバネになる。

柔道の古賀選手は、ケガから復帰後、惨敗して、もう柔道をやめようと思ったそう。ところが、後で試合のビデオに映った、応援してくれた方々に頭を下げる両親の姿を見て、「もう一度」と決意して、次のオリンピックで見事、金メダルに輝いた。

安藤氏も、悔しい体験をたくさんしてきた。21歳の時、お兄様を亡くしたという非常に辛い体験。それでも、安藤氏は、「苦難福門というように、やはり苦難はありがたいもので、そこに大きな幸せがある」という。

最後に、現在健康な60歳、倫理歴14年になる安藤氏が、「使命」=「天職」、いわば「幸せ」をつかむ方法について、5つの実践を紹介してくれた。

「使命」=「天職」、いわば「幸せ」をつかむ方法

- (1) 不安や怒りで心が暗くなったとき、感謝の心を思い出す。
- (2) プラス発想で、「愚痴と不満」を口にしない。
- (3) 元気(心、体、お金)になるには?
 - ・3つの習慣 ①早起き ②親孝行 ③プラス思考
 - ・健康5原則 ①食べ物 ②水 ③排泄 ④精神面 ⑤運動
- (4) 「ついでな一」「ありがたいな一」で、ツキを呼ぶ。
目線が下がり、従業員と1つになれる。会議も建設的に進む。
- (5) 尊己及人…尊己は良いが、それを人に及ぼすことが大事。

次回 第880回MS! 6/10(火)6時~7時+朝食会 ホテルニューオータニ幕張(043-297-1777)

テーマ	自主企画「成功の条件」	講師	株式会社アスカ佛商 代表取締役 丸 淳一 氏
-----	-------------	----	------------------------

できるできるやればできる!

明るく楽しくなければ倫理じゃない!

・会員120社・MS30名以上・美浜を美しく